

早稲田大学 人間科学学術院 人間科学会 諸費用補助成果報告書（Web 公開用）

申請者（ふりがな）	徐 桜晗 （ じょ おうかん ）
所属・資格（※学生は課程・学年を記載。卒業生・修了生は卒業・修了年月も記載）	博士後期課程 3 年
発表年月 または事業開催年月	2025 年 10 月
発表学会・大会 または事業名・開催場所	第 84 回日本公衆衛生学会総会
発表者（※学会発表の場合のみ記載、共同発表者の氏名も記載すること）	徐 桜晗, 堀田 健弘, 片山 佳代子, 阪口 昌彦, 扇原 淳
発表題目（※学会発表の場合のみ記載）	BERTopic を用いた SNS 上の HPV ワクチンに関する健康情報研究の動向分析
発表の概要と成果（抄録を公開している URL がある場合、「概要・成果」を記載した上で、URL を末尾に記してください。また、抄録 PDF は別途ご提出ください。なお、抄録 PDF は Web 上には公開されません。）	
【背景・目的】HPV ワクチンは、子宮頸がんの予防手段の一つとして、有効性と安全性がすでに確認されているが、日本の接種率は依然として高くない。近年、SNS は若年層の主要な健康情報源となっており、SNS を介した健康教育が人々の健康行動にポジティブな影響を与えると報告されている（Laranjo et al., 2015）。一方で、不確かな情報が流通し、ワクチン接種行動に影響を及ぼしている可能性も指摘されている。本研究では、SNS における HPV ワクチンに関する健康情報の研究を対象に、研究動向を明らかにすることを目的とした。 【方法】本研究は、PubMed 等に 2004~2024 年に発表された、SNS における HPV ワクチン関連の英語原著論文 50 件の抄録を対象とした。前処理を行い、BERT によりトピック分析を実施し、各トピック上位 10 単語と代表文をもとに ChatGPT でラベルを生成した。さらに DTM により時系列変化を分析した。 【結果】各抄録を分析した結果、分類不能な文を除き、19 のトピックが抽出された。クラスタ分析により 4 つの主要クラスタに分類され、ラベルは①デジタル健康情報の定量分析、②HPV 情報の質と評価、③HPV ワクチンに関する態度と行動の心理的・文化的要因、④SNS 上の情報拡散・感情・メディアの構造分析と生成された。関連研究の発表年では、最初は 2008 年に 1 本であり、2015 年以降に増加傾向がみられた。また、DTM による正規化頻度に基づく各年の代表的トピックとしては、2008 年の「統計的検定・信頼区間に関する記述」から、2021 年の「顔認識と人種・性別のバイアス」に関する話題が抽出された。 【討論】抽出されたトピックは、情報の定量分析、質的評価、情報の拡散構造など多様な側面を含み、学際的な広がりが見られた。特に SNS の特性を踏まえた情報の拡散構造に関する研究が進展している点が注目される。また、年次推移からは、社会的関心の高まりや、新しい技術・分析手法の導入が確認された。SNS 特有の拡散力や感情的表現に着目した研究は誤情報対策だけでなく、効果的な健康教育の構築にも貢献する可能性がある。研究成果に基づいた、若年層への接種行動に対する心理的・社会的背景を踏まえた情報設計および発信手法の検討が求められる。	

※無断転載禁止